資料２

平成30年度　鹿島市立東部中学校　学校評価結果

1　学校教育目標	2　本年度の重点目標
『心豊かに　ともに伸びる』 ～STEP　UP！　勉強・あいさつ・掃除～	①地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進） ②学力の定着と向上（勉強）（確かな学力づくりの推進） ③心の教育の推進（あいさつ・掃除）（豊かな心づくりと体づくりの推進） ④「生きる力」の育成（進路指導の充実）

達成度　A：ほぼ達成できた
B：概ね達成できた
C：やや不十分である
D：不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3　目標・評価

①地域とともにある学校づくり（開かれた学校づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
学校運営	○開かれた学校づくり	・学校情報の発信 ・学校の公開 ・学校評価の実施	・学校教育活動にかかる情報発信に努める。 ・学校行事や授業参観への保護者の参加率を40%以上にする。	・学級だより、保健だより、図書館だより、学年だより、学校だより等を発行して、学校の様々な情報を発信する。 ・学校行事などは早めに案内をし、携帯メールを利用した呼びかけを実施する。 ・保護者が行事に参加しやすい日程を考慮する。 ・開かれた学校づくり委員会等を開催して情報を公開し、評価の適正化を図る。	B	・学校評価の保護者アンケートにみられるようにたよりなどで学校情報を積極的に提供しているという割合が約93%をしめ情報発信が十分できている。 ・保護者が参加しやすい日程を設定したが、文化発表会の日曜開催の希望がある。 ・開かれた学校づくり委員会が、3回開催し各委員から評価の適正化が図れた。	・情報発信については、ホームページの更新が不十分だったので、担当者を決め、更新を頻繁に行うようにして情報発信に努める。　・平成31年度は文化発表会を年間計画で日曜日に設定し、保護者参観を増やしていく。　・平日の授業参観についても、参加したくなる内容に工夫をしてみる。
		・各学校との交流及び連携	・地域及び校区内3小学校との交流及び連携に努める。 ・市内中学校との交流及び連携を図る。	・小・中連携により、地域団体との連携強化を深める。さらに、地域行事への積極的な参加や協力を推進し交流の充実を図る。 ・日曜参観等の同時開催を含め、市内中学校として学校行事や部活動を通しての交流や連携を図る。	B	・地域行事については、学校からも呼びかけ積極的に参加している。 ・市内中学校との交流・連携は、吹奏楽部や生徒会などが中心になって市の行事に参加できた。 ・小中連携については、8月に交流会をおこなったが、今後も連携を強化する必要がある。	・部活動等の学校での活動等を考慮して、無理のない地域行事への参加を検討していく。　・小中連携については、一部校務分掌での交流は多いが、それ以外は少ないので、職員間がもっと協力体制がつくれる具体的な取り組みをおこなっていく。
	●業務改善	・業務の改善を図る。 ・教員の働き方改革の推進	・会議や事務の効率化を図り、教職員が生徒と向き合う時間を確保する。 ・時間外労働を減らす取組をおこなう。	・分掌担当者と協議事項等について事前に検討し、職員会議の効率化を図る。 ・分掌事務負担を減らすため、共有フォルダを活用して、引継ぎの円滑化や再利活用を図る。 ・昨年度に引き続き毎週水曜日を定時退校日、毎月第三日曜日を部活動休業日として、時間外労働時間の軽減をはかる。	A	・職員会議の効率化を図るため、企画委員会など事前の検討ができた。 ・分掌事務負担をへらすため、共有フォルダを活用した再利活用をおこなった。 ・平日に週1日、土日に週1日の部活動休養日に取り組み、時間外労働時間の軽減を図った。	・職員会議については、事前に協議内容の資料を配布したり共有フォルダで閲覧できるようにして効率化をはかる。 ・今後も週2日間の部活動休養日を徹底し、職員の時間外労働時間をへらす。

②学力の定着と向上（勉強）（確かな学力づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	・指導方法の改善・充実を図る	・「わかる授業」との生徒の評価を7割以上にする。 ・長期休業中においての補充学習を計画的に実施し参加者の7割以上に満足させる。 ・9月からの3年生の放課後学習に指導者をおき、参加者の7割以上に満足させる。	・TTや少人数授業の充実を図る。 ・表現活動や活用力を取り入れた授業の充実を図る。 ・授業研究会を計画的に実施する。 ・各学年で長期休業中や放課後学習の内容を検討し実施する。 ・小中連携で学力向上を研究する。（活用力）	A	・生徒評価の「授業がよくわかる」が88%を越え、授業の充実が図れている。 ・教師の主体的で対話的な授業実践をおこなうための授業研究会を計画的におこなうことができた。 ・3年の放課後学習に重点をおき、入試に向けた取り組みができ約9割の生徒が満足できた。 ・1年生で入学当初の低学力生徒が多く、小中連携での学力向上が今後も課題である。	・指導法改善のために、引き続き授業研究会を活発にするとともに教科に関する研究発表会や研修会等への積極的な参加を進める。　・アクティブラーニングなどの先進的な指導方法を校内研究などで研究を進める。　・低学力生徒を減らすための対策について全職員で共通理解を図って、具体的方策をたて取り組んでいく。 ・学力向上に関する小学校との話し合いの場を設定するなど小中連携を進める。
		・家庭での学習習慣の確立	・家庭学習時間が1時間以上の生徒が6割を超える。 ・家庭学習の指導助言を行い、宿題提出率を7割以上にする。 ・伝えるノートを活用し、望ましい学習習慣と生活リズムを確立させる。	・伝えるノートを保護者と教師が共有し、生徒の生活習慣の確立を図る。さらに、家庭との連携の中で、家庭学習の習慣づけを図る。 ・小中連携で家庭学習習慣についての研究を進める。	B	・家庭学習時間が1時間以上が生徒が7割をこえ、宿題の提出率も9割をこえて定着している。 ・伝えるノートを活用し、家庭への啓発活動もできているが、一部の生徒の家庭協力がきびしく学習習慣を定着さけることが課題である。	・家庭学習については、家庭の協力も得られているので引き続き連絡ノートなどを活用し、家庭学習習慣の定着に努める。 ・ただ提出するだけの宿題に終わっている生徒も多いので、内容について全職員で共通理解し充実を図る。

③心の教育の推進（あいさつ・掃除）（豊かな心づくりと体づくりの推進）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	●心の教育	・道徳教育の充実 ・人権意識の高揚 ・ボランティア体験活動を通した思いやりの心、共に生きる心の育成 ・生徒指導の充実	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・生徒会を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育の充実を図る。 ・教育相談を実施し。 ・Q－Uテストを活用した学級づくり。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級つくり、支持的風土のある学級づくり。人権作文や人権集会、標語への取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の問題の早期発見につなげる。	・全担任が年に1回は、道徳の時間を公開する。 ・生徒会を中心に校内外で、ボランティア活動を企画し、体験活動や福祉教育の充実を図る。 ・教育相談を実施し。 ・Q－Uテストを活用した学級づくり。 ・差別やいじめを許さない思いやりのある学級つくり、支持的風土のある学級づくり。人権作文や人権集会、標語への取組を充実させる。 ・毎月、生活アンケートを実施し、生徒の問題の早期発見につなげる。	A	・4月にふれあい道徳を実施した。授業参観の形で全担任が公開授業を実施した。 ・生徒会を中心にボランティア活動を実施した。1年では障がい者教育として福祉教育を活発におこなえた。 ・Q－Uテストの結果分析については、校内研修をおこない学級づくりに役立てることができた。 ・人権集会や教育相談体制の充実を図ることができた。生徒の学校評価アンケートでは、「学校が楽しい」という生徒が95%を越え、「相談できる知達や先生がいる」でも91%と高く思いやりある学級、学校づくりがでいている。	・来年度から道徳の教科化となる。道徳関する研修等の計画を立て、全職員で授業改善を図る。 ・生徒会が自主的にボランティア活動など校内外の活動に積極的に取り組めるよう指導・支援を行う。
	●健康・体つくり	・望ましい生活習慣の形成 ・健康な体つくり ・食育指導の充実	・早寝早起きの習慣が出来る生徒が7割を超える。 ・朝食喫食率95%以上とする。 ・家庭で、テレビを見たりゲームをする時間が3時間以上ある生徒を1割以下にする。 ・部活動をがんばっていると答える生徒が9割を超える。	・3年間を通した健康指導を充実させる。健康観察や生活習慣調査等で、生活の実態を調べ、家庭への啓発を図る。 ・食育強化月間等に合わせ、学校全体で食育指導を実践する。 ・保護者との連携を深め、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・心・技・体の育成・充実を図るため、部活動への取組を推進させる。	B	・朝食喫食率は95%を越えている。しかし早寝早起きの習慣は67%で今後も家庭への啓発が課題である。 ・家庭でテレビを見たり、ゲームをする時間が3時間以上の生徒が17%をしめ課題である。 ・「わたしは部活動を頑張っている」と言う生徒が96%をしめ、心・技・体の育成につながっている。	・早寝早起きの習慣や朝食喫食の定着は家庭間の差がある。したがって定着できていない家庭との連携を密にして改善に結びつけていく。　・テレビ、ゲームばかりでなくSNS等の情報端末の適切な指導が課題であり、保護者に向けた情報モラル講演などをおこなったり、生徒に対して適切な使用を含めた指導をおこなっていく。

④生きる力の育成（進路指導の充実）

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策・向上策
教育活動	○キャリア教育の充実	・個に応じた進路指導の充実	・総合的な学習の時間や特別活動の時間を有効に活用し、系統的なキャリア教育を行うことで、「夢」と「望ましい将来の自分像」を持ち、その実現のために努力を惜しまない生徒の割合を80%以上にする。	・各学年における指導内容を系統的捉え、3年間を通し た進路指導の充実を図るカリキュラムの充実を図る。 ・学年ごとに進路に対する意識調査を実施し、3年間の積み上げを実感できる資料を作成し面談等で活用する。	B	・1年では職業調べ・職業講話、2年では職場体験・高校調べなど3年間を見据えた系統的なキャリア教育ができている。「適切な進路指導が行われている」に対し保護者は92%で、「進路について先生が適切なアドバイスをしている」に対し生徒は95%をしめている。	・保護者アンケートの「生徒は望ましい将来像を考えている。」が56%と低い。今後は生徒が主体的に考える自己肯定感を高めるキャリア教育の推進する方策を進路指導主事を中心に図っていく。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点（具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題（左記の理由）	具体的な改善策
特定課題	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教職員のICT利活用に係るスキルアップの向上を図る。	・全職員がICT機器を活用した効果的な教科指導を行うことができるようにする。	・研修会等へ積極的に参加する。 ・授業研究でICT機器を取り入れた研修会を実施する。（全職員が機器を活用した授業を実践する）	B	・ICT利活用教育については、生徒・保護者とも9割以上でわかりやすいと答えていて、高い評価を得ている。 ・全職員がICT機器を利用し、授業研究等でも積極的に活用している。	・主体的で対話的な深い学びをおこなうためのICT機器の効果的な利活用について研修や授業研究会に参加し、職員の指導力向上につなげる。
	●いじめ問題への対応	・いじめの未然防止に努め、早期発見、早期対応を行う。 ・組織的に対応する職員体制を整える。	・職員のいじめ問題への対応や取組に対する、生徒評価、保護者評価で、8割以上の評価を目指す。	・毎月、生徒の生活アンケートを実施し、生徒の状況を把握し、予防を含め早期発見につなげる。 ・いじめの定義を再確認し、小さなことでも常に報告・連絡・相談を繰り返し、情報を共有しながら、判断から取組につなげ、生徒に安心、安全の環境を作り上げる。	B	・いじめ問題に対して,生徒は「差別やいじめをしないように心がけている。」が99%と高く、学校での取り組みが意識化につながっている。保護者は「いじめ対応によく取り組んでいる。」が70%で学校での取り組みの情報発信や保護者理解が課題である。	・いじめ問題に対しては、全職員が常日頃から危機意識をもって生徒の様子を観察し、未然防止、早期発見に努める。 ・引き続き生活アンケート、教育相談アンケートを活用し、差別やいじめを許さない学級・学校づくりに全職員で取り組む。
	○教職員の資質向上	・「めざす学校を支える教師像」を目標として常に研鑽を重ねる。	・職員の接客や応対での保護者の満足度を9割以上にする。 ・教師への信頼している保護者を7割以上にする。 ・先生が生徒の気持ちがわかってくれると回答する生徒が8割以上にする。	・服務規律の保持に努める。 ・外部講師による研修会を実施する。 ・校内研修会を充実する。 ・講演会や研究発表会等へ主体的に参加する。 ・研修会等へ参加しやすい校内体制をつくる。	B	・教師への保護者の信頼は82%、職員の接客や応対は88%と目標に近い数値が見られる、今後も教職員としての自覚と資質を向上めざし努力が必要である。 ・生徒の評価も「先生が思いやりをもって接してくれる」が95%で強い信頼関係ができている。	・常日頃から生徒への適切な言葉遣いに心がけ、保護者への対応も誠実な気持ちをわすれずに丁寧に対応する。 ・今後も教職員の資質向上のため、校内研修で実施し、有意義な校外研修などにも積極的に参加する。
	○危機管理体制の整備	・危機に際してすぐに機能する「危機管理マニュアル」の定着。 ・危機に対して、敏感で的確な行動ができる体制整備。	・学校で起こる危機に関して未然防止に努めている教職員が9割を超える。 ・危機に直面した際に的確な対応ができると思う割合が、職員8割、生徒7割を超える。	・マニュアルについて理解・徹底を図る。 ・関係機関との連携をとるとともに、各種訓練を実施し、体験的な理解を図る。 ・多くの情報を発信し、危機意識を高める。	B	・危機管理に関しては、関係機関との連携をとり、各種訓練を行い的確な対応について研修している。的確な対応ができると思う割合が、職員が94%、生徒が81%であった。 ・校区内で不審車事案が3件(被害なし)あり、未然防止のため地域・保護と連携の強化が課題である。	・危機管理マニュアルのさらなる理解と徹底を図り、的確な対応について具体的な事例や外部講師を呼んで研鑽をつむ。 ・来年度は防災教育に焦点をあて、保護者・地域の協力をえて、生徒とともに計画的に研修をおこなう。
	○掃除やあいさつの充実	・目指す学校像、「明るく元気な学校」・「美しい学校」の実施 ・無言掃除指導の徹底 ・生徒、職員お互いに元気のよいあいさつを交わす	・無言掃除をきちんとできていると答える生徒が9割を超える。 ・地域で元気なあいさつができているという生徒が9割を超える。	・生徒会やPTAとの連携を中心とした挨拶運動の充実と教職員の指導体制を確立する。 ・教職員、保護者ともに挨拶を交わしあうように呼びかける。	A	・無言清掃、挨拶ができていると答える生徒が95%を越え、学校での指導が行き届き、PTAあいさつ運動等の保護者協力ができている。	・まだ元気な挨拶ができない生徒がいるので、今後も引き続き、PTA活動や地域とも連携し「明るく元気な学校づくり」に取り組む。

4　本年度のまとめ　・　次年度の取組

生徒・保護者の学校評価の数値が過去4年間で一番高く、生徒が楽しいと思える学校づくりができている。今年度は諸問題に対して、担任ばかりでなく学年・学校といち早く共通理解を図り、組織的に取り組み、落ち着いた学校づくりができている。学力向上に対しても共通した学習規律が確立していて、生徒が意欲的に授業に取り組み姿勢が身についた。したがって学習状況調査においても4月調査に比べてほとんどの教科で県平均を上回るようになった。今後も新学習指導要領で示された「主体的で対話的な深い学び」目指し、教職員の指導方法の改善と指導力の向上を図っていく。
また、今後も地域・保護者との連携や協力体制を強め、学校からの情報発信も密にして、安全で安心して過ごせる学校づくりに取り組んでいく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目